


大学生が臨む「次世代の平和教育」

秋田大学提供
作成日 2016年3月3日
更新日 2016年10月20日

	研究者氏名 とのいけ さとし 外池 智	所属機関 秋田大学教育文化学部	関連キーワード(複数可) 「次世代の平和教育」 継承的アーカイブ
	主な研究テーマ ・社会科教育 ・歴史教育 ・身近な地域の教育資源を取り上げた授業開発 ・郷土教育の歴史研究		主な採択課題 ・基盤研究(C)平成27～29年度(予定)(配分総額:4,810千円) 課題名「継承的アーカイブの活用と『次世代の平和教育』の構築」 ・基盤研究(C)平成24～26年度(配分総額:5,330千円) 課題名「戦争体験『語り』の継承カリキュラムの開発と学習材としての活用」

① 科研費による研究成果

戦後70年が経過し、これからの平和教育には戦争体験者をよりどころとしない「次世代の平和教育」の実践が必要であるという問題意識から、以下のような新たな教育カリキュラムや教材の開発、授業の実践に取り組んでいる。

1) 継承的アーカイブの活用

戦争体験談を記録したDVDや戦争遺跡、遺物などの教育資源を活用した教育

2) 戦後の平和希求活動への着眼

戦時中の歴史的事象や史実を取り上げるだけでなく、その後70年間の平和への取り組みにも着眼した教育

3) 目的的和平教育から方法的平和教育へ

これまでの平和教育:

子ども達の平和への社会的実践を目的とした教育



次世代の平和教育:

平和を目的とする教育にとどまらず、平和教育を通じて言語スキルや問題解決力、社会参画力や人間関係形成力を育成することを目指す方法的教育

② 当初予想していなかった意外な展開

今年度は、日本最後の空襲の一つと言われる秋田市土崎の「被爆倉庫」へのフィールドワーク、長崎の「家族証言者」佐藤直子氏、広島の「被爆体験伝承者」第一期修了生榎原泰一氏による講話、100歳のジャーナリストむのたけじ氏を取り上げた秋大附小、附中での授業実践などが、新聞(秋田魁新報、河北新報)・秋田放送、NHK)等の多くのメディアに取材された。



「被爆倉庫」
フィールドワークの様子

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

今後は(1)「次世代の平和教育」の先進的実践校の取り組み調査や研究成果の公刊、(2)貴重な戦争遺跡である「被爆倉庫」のアーカイブ等の取り組みを予定しているが、本研究を行うことにより、戦争体験を持った世代をよりどころとしない平和教育の構築が期待できると考えている。